



10月の「第4回傾聴作文」では、4～6年生は担任ではない先生の話（例えば4年1組で5年1組の担任が話す）、1～3年生は校長先生のお話を聴いて自分が感じたことを文章にまとめました。（1年生は、今回が初めての傾聴作文です。）

第4回の校長先生のお話と子どもたちの感想をお知らせします。

☆☆☆ 「^{じゅう}什の^{おきて}掟」 ☆☆☆

今日の傾聴作文は、1、2、3年生に、「礼儀や規則を守ること」について、お話をします。

昔々、江戸時代、今から約220年前の、まだ小学校とか中学校とか学校がなかったころ、会津藩、今の福島県の会津地方が、「日新館」という学校をつくりました。この「日新館」は武士も一般の人々も通える学校で、10歳になると入学できました。この学校では、皆さんが八木郷小で学んでいるような様々な学習をしていましたが、礼儀作法や武道についても厳しく学びました。礼儀作法とは、相手を立派だと思って大切にようとする気持ちを態度や行動で表すことです。

日新館に入学する前の6歳から9歳までの子供たち、つまり、今でいうと皆さんと同じ1年生から3年生になりますね、その子供たちは同じ町に住む同士の10人くらいで、「什」というグループ分けをされていました。勉強も遊びも、この「什」というグループで行っていました。毎日順番に、「什」の仲間の誰かの家に集まり、みんなで一緒に「什の掟」という文章を声に出して読みました。この「什の掟」は守らなければならない7つの教えがありますが、そのうちの5つについて紹介します。

什の掟

- 一、年長者（としようのひと）の言うことに背いてはなりません。
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません。
- 一、虚言（うそ）を言うことはなりません。
- 一、卑怯な振舞をしてはなりません。
- 一、弱い者をいじめてはなりません。

ならぬことは ならぬものです。

規則を押し付けられ感じがしますが、本当に大切なことは、いちいち気を配ったり、理由を説明する必要がない場合が多いと思います。例えば、「人の物を盗むな」とか「人に暴力をふるってはいけない」とか、特別な理由付けや説明は必要ありません。悪いことは悪い。いけないことはいけない。つまり「ならぬことは ならぬ」のです。皆さんも、礼儀を尽くし規則を守る人になってください。

児童の感想から

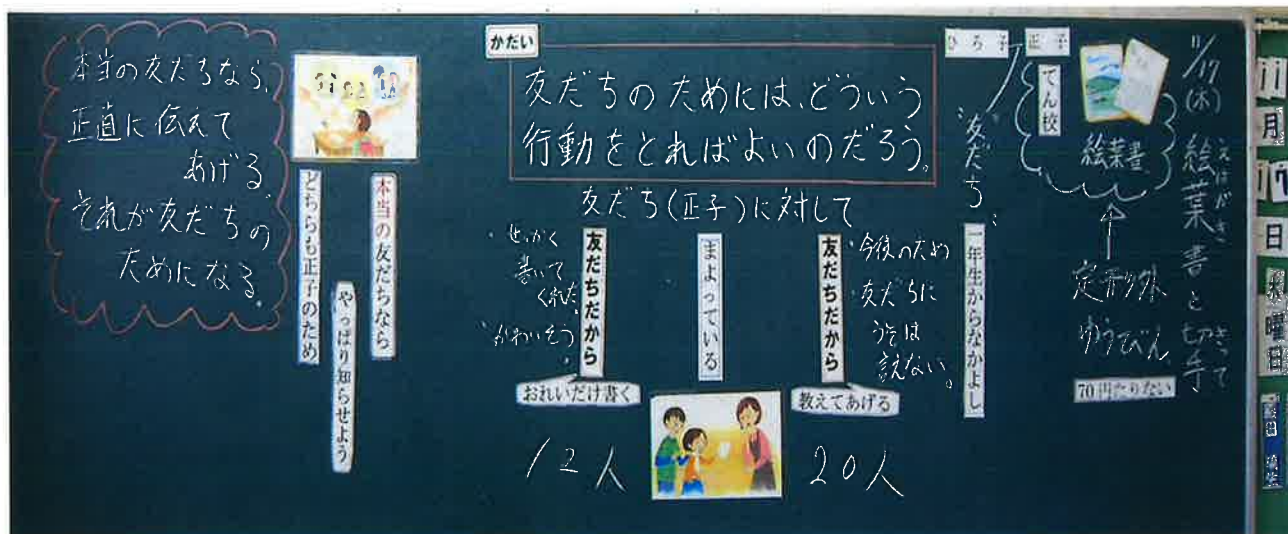
- ・僕は友達と仲良くして先生のお話をよく聞いています。でも、ちゃんと挨拶ができていないから、今度からはちゃんと挨拶をします。そしてうそをついてしまうことがあるから、うそをつかないように頑張ります。（1年生）
- ・僕は、卑怯なことはしていません。毎朝校長先生に大きな声で「おはようございます。」と言っています。でも先生のお話をちゃんと聞いていない時があるので、次からは気を付けます。少しくそをついてしまうこともあるし、ろうかで遊んでしまうこともあるので、気を付けます。（1年生）
- ・校長先生のお話は、ルールのお話でした。校長先生のお話を聴いて、ルールは自分のためだけでなく、みんなのためにもあるのだと思いました。ルールを守らないと危ないことになるかもしれないから、ルールを守することは大事だと思いました。（2年生）
- ・校長先生のお話は、やってはいけないこと、やっていいことのルールについてのお話でした。他に、福島県に新しい学校ができたというお話でした。これから自分は、やっていいことか、いけないことかを考えて、ルールをしっかりと守るように気をつけたいです。（2年生）
- ・もし誰かが悪いことをしたら「だめだよ。」と言ってあげたいです。自分が悪いことをしたら自分で「だめだな。」と考えて、いけないことをなくしたいです。もしも誰かに「だめだよ。」と言われたら、すぐにやめたいです。そして自分が悪いことをしてしまったら、心の中で「だめだな。」と思ってやめたいと思います。（2年生）
- ・校長先生のお話を聴いて、礼儀やルールを守ると、悪いことやいやなことがない生活を送ることができて、礼儀やルールを守るとみんなが楽しく生活することができると思いました。これからルールや礼儀や規則を守りながら生活をしていきたいです。（2年生）
- ・校長先生のお話を聴いて、礼儀や規則を守っていききたいと思いました。江戸時代は学校に通うことがあまりできなかったのに、今は普通に学校に通えることがとてもありがたいと思います。そして弱い人をいじめず逆に弱い人を守り、差別のないうそをつかない大人になりたいと思いました。（3年生）
- ・このお話を聴いて、礼儀は大事なんだなと思いました。江戸時代は年上の人にはおじぎをする、うそをつかない、卑怯なことはしない、弱い人をいじめない、というきまりがあったことが分かりました。これからは、礼儀やよくそくを守りたいです。（3年生）

絵葉書と切手

子どもたちは、中学年として自覚や責任感を持って運動や勉強に頑張っています。今回は「絵葉書と切手」というお話から、友達のためには、言いにくいことも言えるようになってほしいと考え、今回の題材を選びました。子ども達は自分の考えと友達の考えを共有して考えました。

【お話の概要】

転校した正子さんから絵葉書が届いたが、定形外ゆうびんのため料金不足だった。そのことを正子さんに伝えるかどうか迷ったひろ子さんは、友達だからこそ間違いを教えることを選んだ。



授業の中では、自分が「正子さん」になって考え、意見を言いながらみんなで考えました。

授業の振り返りでは

- ・友達だからこそ、しっかりと間違いを教えてあげることが大切であると感じました。これから、友達の間違いがあった時に、優しく教えてあげたいです。
- ・友達だから、言いにくい感じがしたけど、やっぱり友達だから、教えてあげる必要があると思いました。
- ・友達に言うのが嫌われてしまうと最初思っていたけど、やっぱり教えてあげるのが大切だと感じました。



これからも友達と仲良く過ごしていくためにも友達だからこそ、自信をもって教えてあげること大切であることを感じてほしいと思いました。これからも、友達が間違ったことをした時には優しく・丁寧に教えてあげられるといいですね。

くりのみ

1年生の子どもたちも、4月から2年生のお兄さん・お姉さんになるという自覚が芽生え、何事にも前向きに取り組んでいます。道徳の学習でも、積極的に意見を発表し、学習の振り返りを何行にもわたって書く様子が見られ、「どう考えどう行動することが自分や周囲の人たちにとってより良いのか」について1年生なりに真剣に考えています。

【お話の概要】

おなかがすいたきつねは、どんぐりを見つけて食べるが、帰りにうさぎに「何も見つからず、はらぺこ」と言う。すると、うさぎは二つしかないくりの一つをくれた。きつねは、一人占めしようとした自分に対して、くりを分けてくれたうさぎの思いやりの深さに感動し、涙を流した。



< 涙をながしながら きつねは、どんなことを うさぎに話したと思いますか。 >

- ・うそをついてごめんね。自分はうそをついたのに、うさぎさんは優しいね。
- ・探すの大変だったのに、くれるんだね。本当に、ありがとう。
- ・ぼくは、たくさんどんぐりを見つけていたのに、あげなくてごめんね。

< 本当の友達とは、どんな友達だと思いますか。 >

- ・気持ちを考えてくれる友達。
- ・励ましてくれる友達。
- ・自分を守ってくれる友達。
- ・いつも一緒に遊んでくれる友達。



自分が見つけたどんぐりを独り占めしたいと思うきつねの気持ちに共感し、自分もうさぎに黙っているかもしれないという素直な意見がたくさん出ました。でも学習の後半になると、「やっぱり二人で分けて食べたほうが美味しい。」と考えが変化し、真の友情・友達について深く考えることができました。